

## 令和4年度 第72回東北地区中学校長会研究協議会 宮城大会

(ハイブリット開催)

～新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育～



第72回東北地区中学校校長研究協議会宮城大会が、2か年ぶりに、「新たな時代を切り拓き、良い良い社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」の大会主題のもと、令和4年6月24日に宮城県仙台市のTKPガーデンシティプレミアム仙台西口8階を会場として開催された。

新型コロナウイルス感染症状況を考慮し、参集型とWeb参加を併用したいわゆるハイブリッド方式に加え、内容も厳選し1日のみの開催であった。東北各県より参集者約100名、オンライン参加者約800名の会員が、東北地区中学校教育の一層の充実・発展に向け、分科会での研究報告・グループ協議における情報交換を通して研鑽を深めた。

開会式において、東北地区中学校校長会の三田村素志会長は、「社会を生き抜く力を育む教育を推進する中学校教育の一層の充実を希求していくためにも、個に応じた指導を学習者の側から整理する『個別最適な学び』や『多様な学びの実現』などの令和の日本型教育の実現に向けた学校づくりのためにも、我々校長は確固たるリーダーシップを発揮していかなければならない。また2か年ぶりに初めての方式で大会において、今こそ東北はひとつの精神のもの、絆を深める大会としたい」と、あらためて本大会が開催する意義について力強く挨拶され、開会した。

開会式には全日中学校校長会の平井邦明会長の代理で、遠藤哲也生徒指導部長が祝辞を述べられ、一層求められてきている管理職のリーダー性の中、このように東北地区において研究協議会が開催される意義は大きいものであると期待をこめて述べられた。



開会式に引き続き、前日に行われた理事会報告が行われ、「令和4年度東北地区中学校長会宣言・決議」が読み上げられた。

### 宣 言

今日、我が国の教育は、人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を形成するたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中、教育基本法等の関係法規及び学習指導要領の趣旨を踏まえ、新しい時代の変化や諸課題にも対応しつつ、確固たる信念と自負をもって全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

東北地区中学校長会は、中学校教育の更なる充実を目指して、教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、東北各県民の負託に応じていく決意である。

第72回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会にあたり、個々の次の事項を決議し、その実現を期する。

### 決 議

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一、全日中新教育ビジョンを踏まえ、特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を推進する。
- 一、現在の教育課題に則した研修の充実を図り、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、教育諸条件の整備・充実に期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を求め、教育水準の維持向上を期する。
- 一、学校における業務の精選・明確化等の「学校における働き方改革」を力強くリードし、新しい時代に求められる魅力ある学校づくりを推進する。
- 一、東日本大震災及び原子力発電所事故をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の更なる充実に努め、継続して東北6県校長が連携・協力する。

その後の記念講演会は、落語芸術協会三遊亭遊三一門で落語家の六華亭遊花氏を講師にお招きし、「なまって 笑って コミュニケーション」と題して、自らの経験や落語の一節を交えながら、現代におけるコミュニケーションの取り方やその大切さについて、東北訛りの方言で楽しく話された。

方言は、イントネーションの違いや表情・強弱などで表現することが多く、文字で書き表すことは困難なことが多いものであるが、その地域の誰でもが話せるもの。それが今も残っているということは、その地域では世代を越えた会話があるということであり、関わりを持って暮らしていることを示している。東日本大震災で多くのものが奪われたが、訛りは奪われなかった。SNS や Web ではなく、直接顔を会わせてコミュニケーションすることの大切さについて見つめ直す機会となった。



午後の分科会は、第1分科会「キャリア教育・進路指導」、第2分科会は「健康・安全教育」、第3分科会は「道徳教育」をテーマにそれぞれ研究報告及び協議が行われ、本県からは花巻市立花巻中学校の柏木廣喜校長が、キャリア教育における『総合生活力』と『人生設計力』の確かな育成に向けて花巻市中学校長会での研究実践した成果を発表し、同大迫中学校の菅原俊博校長が協議の司会を務めた。コロナウィルス感染症により、体験学習等の取組ができない中、工夫改善を図りながら研究を推進した成果が発表された。



閉会式では、次期開催地の福島県の渡部光毅会長から、まだ新型コロナウイルス感染症の終息は見通せず、福島県も宮城大会同様の Web を活用した縮小型で開催する方向で準備を進めているとの挨拶があり、今年度の研究協議会の全日程を終了した。